



第1回学校評価の結果について～週末のお出かけは図書館へ～

校長 橋本 潮

日頃より本校の教育活動への温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。さて、7月に実施いたしました学校評価・保護者アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、現在の本校の強みと今後の課題、そして具体的な改善策をまとめましたのでご報告いたします。

【成果1】学校安全への取組における強み

質問4「学校は子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全対策に取り組んでいる」への「あてはまる」が70.2%と全質問における最高値を記録しており、「ややあてはまる」も含めた肯定的評価は92.8%と、非常に高い評価をいただくことができました。本校では、毎月の避難訓練の他、定期的な安全点検や随時安全教育を行っています。最近では、毎日のように雨の日が続くことから、児童に河川の危険性を指導したり、通学路の見回りを行ったりしました。警察官を講師に招いた教員向け安全研修会は、毎年行っています。児童が、安全安心に毎日を過ごせることは、教育活動を進める上での大前提と考えています。引き続き、学校安全への取組を重要視してまいります。

【成果2】共生社会への理解の高さ

質問2「学校は、特色のある取組として『将来の児童の社会的自立や共生社会の実現をねらいとした特別支援学級と通常学級の交流行事や合同学習』を行っていることを知っている」へは63.1%が、また質問14「学校は、特別支援教育に取り組んでいる」へは、64.3%が、「あてはまる」と回答しています。本校が大切にしてきた多様性尊重の方針が保護者に広く認知され支持されています。本校には多様な児童が在籍しており、児童の個々の教育的ニーズに対応してきた教員の専門性の高さは、本校の最大の強みです。引き続き、なのはな学級と通常学級を一体的に運営し、児童同士、お互いを知り、理解し合う経験を積み重ねていきます。

一方で、今後の長房小の子どもたちの成長に向けて、学校と家庭が手を取り合って取り組むべき「2つの大きな課題」が見えてまいりました。

【課題1】深刻な読書離れ

質問20「子どもは、よく読書している」への「あてはまる」は16.7%に留まり、「あてはまらない」が42.9%と突出して高くなっています。読書離れは、本校の最大の課題となっています。このことは、9月の学校だよりでお伝えしたように、全国学力・学習状況調査と同様の結果となっています(普段の読書時間「全くしない」42.1%、家庭の蔵書数10冊以下36.8%)。読書は、すべての学びの基盤となる「語彙力」や「想像力」を育む大切な活動です。読書の時間を確実に確保する必要があります。

（学校の取組）～読書の習慣化を図る～

登校後、8時25分から8時40分までの朝学習の時間のうち、週1回は読書に取り組むこととし、定期的な読書時間を設定します。また、10月14日（水）から10月19日（月）までを「読書週間」とし、全校的に本に親しむ雰囲気づくりを行います。図書委員会では、お薦めの本の紹介や先生からの読み聞かせ等を企画し、児童が主体となった読書活動を考えていきます。この他、先月から学童保育所にも学校図書室を開放しました。

（家庭へのお願い）～週末のお出かけ先に「図書館」を入れてみる～

週末のお出かけ先に地域の図書館を組み込み、本に触れる機会をぜひ増やしてください。先述の学力調査では、「地域の図書館にどれくらい行きますか」という質問に対し、「全く行かない」と回答した児童は47.4%で、「地域に図書館がない」と回答した児童が21.1%いました。この地域には八王子市立中央図書館がありますが、児童の認知度が低いことは、とてももったいないことです。ぜひ、家族で中央図書館に出掛けてみてください。児童にとって、多くの本と出会う貴重な体験になるはずです。

【課題2】自主的な家庭学習と家庭におけるタブレット端末の活用の不足

質問18「子どもは家で勉強している」の肯定的な回答（あてはまる＋ややあてはまる）は70.2%に達しており、一定の学習習慣は存在します。しかし、最も強い肯定である「あてはまる」単体で見ると34.5%と低めです。さらに「あまりあてはまらない・あてはまらない」の合計が26.2%を占めており、4人に1人の児童が家庭学習の不足、または「宿題を済ませるだけ」といった受動的な学習に留まっている可能性を示唆しています。自主的な学習習慣として定着しているとは言えません。

また、質問19「子どもは学習用端末を活用できている」について、「あまりあてはまらない・あてはまらない・わからない」の合計は28.6%となっています。授業におけるICT機器の活用は進んでいますが、家庭内での有効活用や定着には、やや遅れがあります。ICT機器の活用と学力の定着には相関関係がありますので、今後、目的を明確にして、タブレット端末の持ち帰りを進めていく必要があります。

（学校の取組）～タブレットの活用と情報モラル教育を両輪とする～

現在、朝学習の時間に、タブレット端末を用いてAIDリルに取り組んでいます。AIDリルは、一人ひとりの習熟度に応じて、個別の問題が生成されていく仕組みになっており、学習効果が期待できます。児童が操作方法に慣れた後は、タブレット端末を持ち帰り、自宅でもAIDリルに取り組めるようにします。同時に、タブレット端末等のICT機器は、便利である一方、使い方を間違えるとトラブルになる危険性もあります。そのため、情報モラル教育を並行して行い、児童が安全にICT機器を使えるように指導します。

（家庭へのお願い）～学習環境の整理と学習時間の固定化～

机の上を整理し、毎日同じ時間に学びを始める「学習スペースと時間の固定化」へのサポートをお願いいたします。また、タブレット端末の持ち帰りは、各クラスの実態に応じて順次始めますが、「宿題が終わったら端末にログインしてAIDリルもやってみよう」といった声かけをしてみてください。同時に、家庭においても情報モラルを守ることをお子様にしっかりと教えてください。学校からも保護者向けに「タブレット端末の持ち帰りについて」のお手紙を配信しますので、安全な使用についての注意点を参考にしてください。

本校の基本理念「誰一人取り残さない長房小学校」の実現には、学校での指導と、家庭での温かい習慣づけの両輪が不可欠です。子どもたちが未来へ向けて社会的に自立し、豊かな学力を身につけられるよう、今後とも変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。